

＜産業衛生工学領域について＞

指導教員：石田尾 徹

産業衛生工学は、労働環境における有害因子の発生メカニズムとその測定法および制御法について学ぶ科目である。特論では、産業衛生学領域における工学的対策手法の重要性について認識するとともに、作業環境改善の効果的な方法を理解する。演習では、抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して産業衛生工学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、自ら発表、議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。実習では、現場で問題となっているテーマを選択し、実験、実習を通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。論文指導では、まず、選択した研究課題について、研究の背景、関連する文献調査の方法、研究方法等について教示する。次に、課題を解決するための実験系を組み立て、データを収集する。得られたデータについて指導教員とのディスカッションを重ねながら産業衛生工学的考察を行い、研究成果を修士論文としてまとめる。

＜産業衛生学専攻博士前期課程への入学を希望される方へ＞

1. 研究テーマについて

産業衛生工学領域では、以下の研究テーマを想定しています。

作業環境計測制御学講座石田尾 徹講師が中心となって指導する研究

- 局所排気装置におけるフランジ付きおよび台付きフードの風速の効果を表現する新しい距離減衰式の開発
- 有機溶剤蒸気あるいは粉じんに対する新しい発散防止抑制装置の開発

2. 受け入れ要件の目安

一般入学者および週1日程度の対面指導が可能な社会人入学者については、受け入れ要件はありません。

一方、主にリモートでの指導を前提とした社会人入学を希望される場合、2年間の修学期間で必要な成果を確実に上げるために、以下を受け入れの目安としています。

以下の項目のうち、2つ以上の項目を満たすこと。

- 想定される研究を行うことができるフィールドを確保できている。
- 研究のための分析機器（ガスクロマトグラフ等）を有し、その原理と使い方を理解している。
- 何らかの学術論文を執筆、あるいは学会発表をした経験がある。

問い合わせ先：作業環境計測制御学 代表メールアドレス

j-1knkyo@mbx.health.uoeh-u.ac.jp